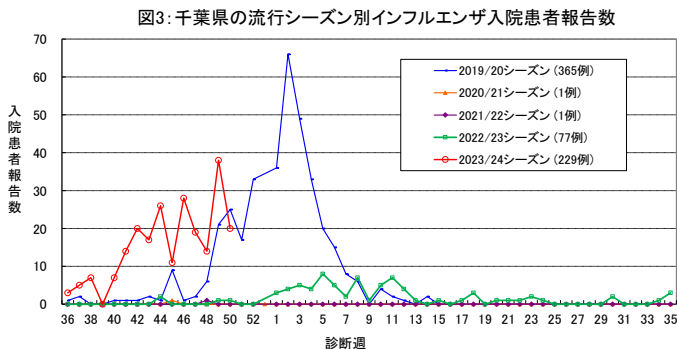
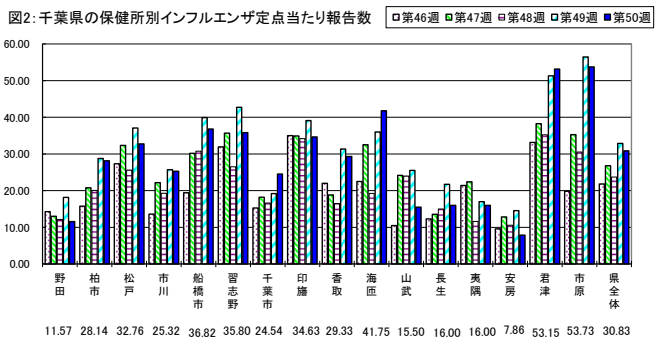
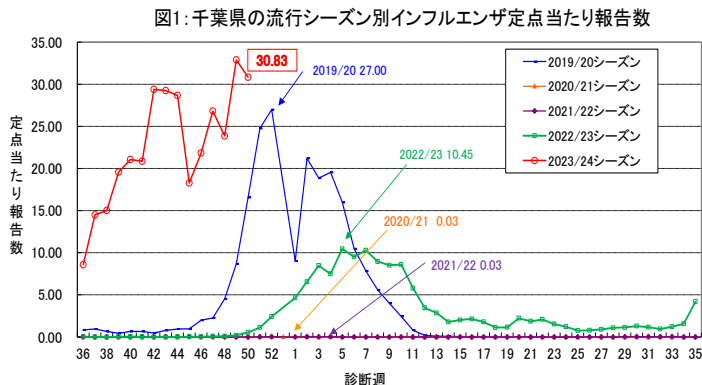


【今週の注目疾患】

《インフルエンザ》

2023年第50週の県全体のインフルエンザの定点当たり報告数は、前週の32.89(人)から減少して30.83(人)となった。今シーズン(第36週:2023年9月4日～)は例年より早期に患者報告数の増加が見られている(図1)。



年齢群別では、2023年第50週に報告のあった計6,290例のうち、10歳未満が2,638例(41.9%)と最も多く、次いで10代1,787例(28.4%)、30代500例(7.9%)であり、20歳未満で患者報告数全体の70.3%を占めた。患者報告数が多かった地域は、市原(53.7)、君津(53.2)、海浜(41.8)

保健所管内であった(図2)。

また、2023年第50週に県内の基幹定点医療機関から報告のあったインフルエンザの入院患者数は20例であった。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行が始まった2020年以降、基幹定点医療機関におけるインフルエンザの入院患者報告数は減少していたが、今シーズンは例年より早期に入院患者報告数の増加が見られ、第36週～第50週の累計報告数は過去5シーズンで最も多くなっている(図3)。

インフルエンザ予防のため、こまめな手洗い、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、室内でのこまめな換気、適度な湿度の保持、予防接種などを心がけていただきたい^{1,2)}。

■参考・引用

- 1)千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザ警報の発令について(令和5年12月13日)
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2023/infulu-keihou2023-3.html>
- 2)千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザから身を守ろう
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/influenza-yobou.html>

《その他Topics》

【年末年始に海外へ渡航される皆様へ】

海外においては、国内では見られない感染症が流行していることがあり、海外滞在中に感染する可能性があります。海外へ渡航する際には、事前に渡航先における感染症の流行状況、現地滞在中の注意点、海外渡航に際し推奨されている予防接種をご確認ください。

また、感染症には、潜伏期間(感染してから発症するまでの期間)が数日から1週間以上と長いものもあり、渡航中や帰国直後に症状がなくても、しばらくしてから具合が悪くなる場合があります。その場合は、医療機関に事前に電話連絡して海外渡航歴があることを伝えた上で受診し、渡航先、滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴等についてお伝えください。その他不安があれば最寄りの保健所にお問い合わせください。

なお、2023年に県内医療機関から報告のあった感染症のうち、海外で感染したと考えられるものは次のとおりです。

表:2023年に県内医療機関から報告のあった海外で感染したと考えられる感染症

疾患名	感染したと思われる地域	主な症状 1)	主な感染源 1)
細菌性赤痢	東南アジア	下痢、発熱、腹痛	生水、氷、生肉、生野菜、カットフルーツ
腸チフス	東南アジア、南アジア	高熱、頭痛、だるさ、発疹	
パラチフス	南アジア		
A型肝炎	南アジア、アフリカ南部	発熱、だるさ、黄疸	
アメーバ赤痢	東アジア	下痢、粘血便	
コクシジオイデス症	北米	発熱、頭痛、咳、倦怠感	土埃中のカビ
チクングニア熱	東南アジア	発熱、関節炎、発疹	ネッタインマカ ヒトスジシマカ
デング熱	東南アジア、南アジア	発熱、筋肉痛、発疹	
マラリア	アフリカ西部	発熱、寒気、頭痛、嘔吐	ハマダラカ

■参考・引用

1)厚生労働省検疫所FORTH:海外へ渡航される皆さまへ!

https://www.forth.go.jp/news/20220722_00001.html

【新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の発生状況】

2023年第50週の県全体の定点当たり報告数は、前週の2.97人から増加し、4.20人であった。

地域別では、香取(6.00)、印旛(5.92)、夷隅(5.60)保健所管内で患者報告数が多かった(図)。

図：直近5週間の県内 COVID-19 定点当たり報告数の推移(保健所別)

